

エルサレム市在住

ラムジー先生

その地に
生きる人々

5

パレスチナ



■東エルサレム周辺の壁。写真中央をほぼまっすぐに横切っている。



■診察の様子。診察前に、家族や学校の話などで子どもをリラックスさせるのが上手。

『教育を受けている今の子どもが、やがて自分の子に伝える。それがエルサレムの将来を支えていく』

パレスチナ 東エルサレムでの活動

分断壁の建設によって地域の分断、隔離が進む東エルサレムでは、教育や医療へのアクセスが困難になっています。そこでJVCは、地元の医療NGOであるMRSとともに、主に学校や幼稚園などを対象に、健康診断、健康教育、応急処置講習などを行なっています。



エルサレムで生まれ育ったパレスチナ人のラムジー先生は、ロシアでの医学の勉強の後に、病院研修を経てボランティアとしてパレスチナ医療救済協会(PMRS)の巡回診療に二年間参加しました。その後、子どもたちのための活動がしたいと、エルサレムの医療救済協会(MRS)で学校保健事業に携わって今年で六年目に。現在は、エルサレム周辺の分断壁の両側の学校で、JVCと一緒に健康診断や応急処置講習などを行なっています。

この五年で学校の子どもたちがどう変わったか聞いてみると、「前よりも覇気がなくなっている。エルサレムでの生活に対する彼らの不安を感じるし、全体的にHIVや薬物使用に関する教育のニーズは増えている」と残念そうに言います。それでも、「今、心と体の健康を維持するための教育を受けている子どもたちが、親の世代になって今度は子どもたちに教える、それがエルサレムの将来を支えていく」と、先生は信じています。

子どもたちを医師として支えている一方、先生自身もエルサレムに住むパレスチナ人として、家屋の取り壊しなどへの不安を持ちながら、入植地や分断壁と隣り合わせの生活を送っています。先生が幼い頃に同じ学校に通っていた友人の中には、今は分断壁によって住む地域が分かれてしまった人たちも多くいます。「僕の子どもには、家族や友達とこれからも変わらずにエルサレムで暮らしてほしい」と言います。お子さんの将来について聞くと、「彼の将来だから彼の自由さ」と笑いながらも、「エルサレムのパレスチナ人のためになる仕事をしてもらえたらと思う」と、少し背筋を伸ばして答えました。